まち・ひとスケープ＃24　テント劇団夏型天使『ギャザー』仙台公演



令和８年８月27～28日テント劇団夏型天使『ギャザー』仙台公演を錦町公園で鑑賞しました。

「わたしたちのお芝居にオハナシはありません」と挨拶するのは主宰の五月うかさん。

赤白ストライプのマントに赤い頭、ひょうひょうと舞台に登場して、あっという間に観客を独自の世界に引きずり込んでいきます。



オムニバスに展開されていく「出し物」は、知らない誰かの夢の中を垣間見ているようで不確かであやうい。このテントの中で私は「今、ここ」を見失う。

今日の仕事の不手際、家族とのいざこざ、予想より少なかった今月の給与・・・さまざまな心のもやもやが遠い、遠い昔の出来事のように思えてくる。



舞台上にちどり足で歩いてきた男はへらへらと笑いながら突然「飲んでしもたのよぉ」と語りかけてくる。その姿にはどこか見覚えがあるなと気づく。これは私がいつも蓋をしている私自身ではないか・・・？

繰り出される「出し物」は荒唐無稽なのに、登場する人物はなぜか、いつかどこかで出会っている気がする。ああ、ここにいたのかと懐かしい気持ちにもなる。

遮二無二働いていると、こんな人々にはおよそ出会えない。

金をもらうような仕事の中では、こんな人々を思い出す理由がないから今ここは、何者にも縛られることなくただ、ばかばかしいと笑っていい夜なのだ。



発汗みどろで舞台を駆け回る役者たちから放たれた人間の匂いも運ばれてくる。



こんなにも生々しい人の匂いを嗅いだことがあっただろうか！



。



日本各地を巡り続けた人間の、包み隠さないむせるような匂い。



夜の闇に包まれた舞台。オリオン座の右肩に座し、冬の大三角形の一角を占めるベテルギウス。



その赤色超巨星・脈動変光星の超新星大爆発(スーパーエクスプロージョン)の宇宙に引き込まれる。

涼しい秋の風が開け放たれたテントの中をさやさやと吹き抜けていく。



テント劇場夏型天使は、2024 年のラストツアーをもって解散した劇団どくんごの関係者が中心となり、2026 年 4 月から 10 月末にかけて日本各地で現在も上演しています。
https://www.natsuten.com/

